

# 教育研究業績書

2016年10月01日

所属：建築学科

資格：講師

氏名：猪股 圭佑

研究分野	研究内容のキーワード
ビザンティン聖堂における壁面装飾によって構成された建築空間に関する研究	ビザンティン、コーラ修道院、キリスト教絵画、三段階理論、空間構成、山
学位	最終学歴
修士（工学）、学士（工学）	京都大学大学院 工学研究科 生活空間学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 世界建築史、近大建築史における、教員の説明を聞きながら記述する毎回の小テストとそのフィードバック	2014年4月～現在	授業ではできるだけ多くの写真や図面などをパワーポイントで示しながら、ビジュアルな説明を行っている。授業のレジュメを配布するとともに、教員の説明を聞きながら問題形式で学習内容を各自でメモし、さらに授業内容に関連した論述を求める小テストを毎回実施している。その小テストは、コピーを取った上で、次の授業時に学生に返却し、学生の記述について講評してフィードバックを図り、学生の知識の定着及び論理的思考能力の向上を試みている。
2. 初期演習における作品のプレゼンテーション	2014年4月～現在	学生が選んだ建築作品や、各自が授業で作成した作品についてパワーポイントを作成してプレゼンテーションを行い、それに対して他の学生が質問と講評を行う。これにより、大学1年目における建築に対する意識向上や、学生同士の議論の活発化、論理的思考能力の育成を図っている。
3. 建築一般構造Ⅱにおける建築設計の実績を例に用いた指導	2013年04月～2013年09月	躯体と仕上げ材、異なる仕上げ材、建築と設備などの接合について指導する際に、自分が設計した事例の写真や図面を例に挙げながら説明を行った。小テストでは、説明を受けた内容に関する詳細図を学生自らが描くことで、内容の理解を深めるとともに実際の設計に活かせるようにした。
4. 建築設計実務における実際のプロジェクトへの参加	2012年04月～現在	武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ(一級建築士事務所)を拠点として学内外の実際のプロジェクトに参加し、新築・改築・保存・修復などの実務訓練を行っている。2012年度・2013年度前期は武庫川女子大学の玄関口でもある「阪神鳴尾駅」を題材として、外観デザインや内部平面計画、照明計画などの検討及び提案を行った。2013年度後期は武庫川女子大学の「学校教育センター」「看護学部新校舎」を、2014年度前期前半は武庫川女子大学の「武道場」を題材とした。敷地周辺の調査や参考事例の見学を行い、詳細図やCGパース、模型を作成して、コストや施工方法にも配慮したディテールを検討した。2014年度前期後半は「パーミヤーン博物館」を題材として、海外のプロジェクトに取り組んだ。専門業者など学外の多くの専門家との打ち合わせにも積極的に参加し、作成した図面や模型を用いて学生自らがプレゼンテーションを行っている。
5. 図学・CAD基礎演習及び図学・情報基礎演習における建築空間の構成要素を例に用いた指導	2010年04月～2014年08月	投影図や透視図の作図法を説明する際に、教科書通りに図形だけで説明するのではなく、床・壁・天井等の、建築空間の構成要素を例に用いて説明し、図学と建築設計が関連付けられるように工夫した。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 一級建築士	2006年04月	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 阪神鳴尾駅的设计	2012年04月～現在	阪神鳴尾駅や、看護学部新校舎、学校教育センター、武道場を題材とした建築設計実務の授業を通して、大学を含めた地域全体のあり方について考え、阪神電気鉄道株式会社や施工会社、専門業者などに設計提案を行っている。阪神鳴尾駅は武庫川女子大学の玄関口であり、そこ

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
		から学校教育センター、看護学部新校舎、総合心理科学館、そして中央キャンパスへと、研究や教育、文化を象徴する風景をつくりだし、地域に配慮したまちづくりに繋げることを意図し、外観、内観デザインや照明計画などの検討及び提案を行っている。武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ(一級建築士事務所)を拠点として、詳細図やCGパース、模型を作成して、コストや施工方法にも配慮したディテールを検討した。学外の企業との打ち合わせにも積極的に参加し、作成した図面や模型を用いてプレゼンテーションを行っている。
<b>4 その他</b>		
1. 照明学会照明普及賞(優秀施設賞)	2010年05月21日	「東京建物仙台ビル」にて平成21年照明学会照明普及賞(優秀施設賞)を受賞

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
1. コーラ修道院聖堂のキリスト教絵画による内ナルテクスを中心とした空間構成	共	2015年10月掲載決定	日本建築学会計画系論文集	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院におけるキリスト教絵画の配置によって形成されている建築的空間の意味を明らかにすることを目的とし、外ナルテクスの南出入口から内ナルテクスへ至る連続する空間及びそこに描かれた複数の絵画を対象として、断面展開図や内部合成写真を作成し、絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。内ナルテクスを中心として、「神としてのキリスト」そして聖母マリアが象徴する「人としてのキリスト」を可視化し、「キリストの両性」を表現する建築的空間が絵画の配置によって形成されたことを考察した。
2. Significance of the Architectural Space and Mountains in the Christian Art of the Inner Narthex of the Chora Church (査読付)	共	2014年08月	Intercultural Understanding Vol. 4, pp. 27~35	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院の内ナルテクスのドームにおける壁画の主題及び配置を分析することによって、壁画に表現された山と建築空間の意味を明らかにすることを目的とし、モザイクで装飾された建築空間の断面展開図や合成写真を用いて、内ナルテクスの北ドーム及び南ドームで山が描かれている建築空間の分析及び考察を行った。コーラ修道院の内ナルテクスにおいて、山は神の世界と地上の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていた。そして建築空間に壁画を描くことによって低い壁面を地上の世界、ドームを神の世界として構成し、ペンデンティブやルネットによって二つの世界を区分していたと考えられる。
3. Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Monastery of Hosios Loukas (査読付)	共	2012年03月	Intercultural Understanding Vol. 2, pp. 25~28	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画の画面構成における山の機能を明らかにして、コーラ修道院のキリスト教絵画における山の機能と比較考察した。その結果オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画においても、コーラ修道院の場合と同様に、山は世界を区分する枠として描かれていることが考察された。
4. コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型—人物との関係に着目して— (査読付)	共	2011年12月	日本建築学会計画系論文集 第76巻 第670号, pp. 2477~2485	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、人物との関係に着目してその類型を抽出し、それら類型の意味を明らかにすることを目的として分析及び考察を行った。山は、「人物の横にある山」では街の外の危険な世界を象徴し、「人物を縁取る山」では枠づけされた特別な意味を持つ場所を示し、そして「人物の横にある山+人物を縁取る山」では両者の特徴とともに神の世界へと繋がる場所を示していると考えられる。
5. Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Chora Church (査読付)	共	2011年03月	Intercultural Understanding Vol. 1, pp. 25~30	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画の画面構成における山の機能を明らかにすることを目的として、分析及び考察を行った。山は、1つの画面を、聖書の物語の異なる場面に区分し、さらに、1つの場面を異なる領域に区分する機能を持っていることが明らかとなった。

その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 水のみち	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 256~257	衣川桃, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 水は人間や動植物にとっては生命の源であり欠くことのできない存在である。日本人は水との親密な関係を築き続けてきた。建築における人と水との関わりを改めて意識し直すために、日本人がもっている水の文化、すなわち我々の祖先が水に対してどのように接し、どのように考えてきたのか、水の多義的な意味について調査した。神社や寺院などの建築において表現される水は、生命力・浄化力とともに境界性を表している。水は距離感や奥行きによって空間を分離するはたらきをもち、護岸や彼岸といった境界性を生み出している。そこで、神社の構造をもった『日常から非日常への導入』として水をめぐる建築を提案する。
2. カップドキアの岩窟聖堂における祭室及び窓の位置	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 337~338	木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導及び共同研究 カップドキアの岩窟聖堂を対象に文献調査を行い、祭室が位置する方角や窓の有無に着目し、カップドキアの地域ごとの岩窟聖堂の空間の特徴を明らかにすることを目的とした。今回の文献調査によって確認できたカップドキアの岩窟聖堂では、祭室は一般的なビザンティン聖堂と同様に東側に位置することが分かった。本調査では窓を有する岩窟聖堂は多く見られなかったが、Ihlara Valleyの西岸に多数集まっていることが分かった。また、それらの窓は東側に位置する祭室に掘られる傾向が見られた。他地域の窓を有する岩窟聖堂の窓の位置と祭室の方位を確認するとTriconchを除く聖堂4カ所で同様の傾向が見られ、本調査では、Ihlara Valleyだけではなく、カップドキア各地でこの傾向を確認することができた。このことから、東からの光に重要な意味があったと考えられる。
3. コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画による空間構成	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 335~336	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行い、14世紀の献堂者テオドロス・メトキティスの墓室の配置の意味を明らかにすることを目的とする。コーラ修道院のパレクレシオンにおいて、西側から入って左(北)側は「最後の審判」で天国が描かれた向きである。それに対して右(南)側は「最後の審判」で地獄が描かれた向きである。献堂者テオドロス・メトキティスの墓室は、ドームの中心から外れた位置になるにも関わらず、ナオスへ通じる通路があり、かつ最後の審判に描かれた天国により近い、北壁に配置されたと考えられる。
4. 児島・田の口の集落の構造についての研究—由加金毘羅両参りに着目して—	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-1, pp. 615~616	伊藤知夏, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究は由加金毘羅両参りにより発展した児島・田の口の集落が空間的にどのような構造をもっていたかを明らかにすることを目的として調査を行った。由加山は元々信仰の中心であり、田の口港は金毘羅宮と由加山を繋ぐ軸線上の場所である。児島が島から半島へ変わることで、由加山、そして田の口から由加山に到る参道の重要度が増し、由加金毘羅両参りの流行とともに中継地の港である田の口の集落がその軸線に沿って形成されたのである。
5. 阪神電車鳴尾駅におけるモザイクタイル画のデザイン	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 252~253	中村優花, 中野沙耶, 岡崎甚, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅の設計提案、授業における指導 兵庫県の都市計画事業である「阪神本線西宮市内連続立体交差事業(鳴尾工区)」により、武庫川女子大学の最寄駅である鳴尾駅(下り駅舎)が高架化された。2015年3月に下りホームが完成し、そのプラットフォームに武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ一級建築士事務所と同大学院建築学専攻修士課程1年の7名のデザインによる13のモザイクタイル画が設置された。モザイクタイル画の図案制作だけでなく、タイル一つ一つを図案通りに配列し、現場で施工する一段階前の300角シート貼りまでの作業を行った。
6. 宮城県気仙沼市唐桑町大沢地区の防災集団移転において確認された地域コミュニティの意義について	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-1, pp. 281~282	川瀬葉月, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究は川瀬が2011年の東日本大震災直後から復興支援の活動を行ってきた気仙沼市唐桑町大沢地区を対象としている。震災から4年が経過し、各地で復興計画が実行に移されていく中、大沢地区では被災

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
7. カップアドキア・ウフララ溪谷の岩窟聖堂における壁画による空間構成	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), p. 801~802	当初よりコミュニティ再生への住民の意識やまとまりが高く、気仙沼市において防災集団移転促進事業で最初の大臣合意を得た。それは明治三陸地震、昭和三陸地震の被害を受けながらも、営々と受け継がれてきた多様なコミュニティの存在が深く関わってきたであろうし、今回の防災集団移転に際しても、そうしたコミュニティの影響が見出し得た。本研究では、津波被災という非日常の状況下において、住民からのヒアリングを主たる方法として調査を実施し、大沢地区の複層的なコミュニティの特徴を明らかにする。 木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導及び共同研究、代理発表 カップアドキア・ウフララ溪谷の岩窟聖堂の中からユランル・キリセ、シュムビュルル・キリセ、コカル・キリセを対象として、祭室や墓室、開口の有無及び位置に着目し、壁画による空間構成を明らかにすることを目的とし、図像配置図を作成し、壁画の主題及び配置の分析を行った。聖堂西側における墓室の配置や死及び救済に係る壁画の配置によって、死後の救済への強い祈りが表現されていると考えられる。単なる祈りの場所であるだけでなく、墓室や壁画の構成から“死”を意味する場所でもあったことが見出された。
8. コーラ修道院の内ナルテクスにおけるキリスト教絵画による空間構成	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), p. 799~800	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院の内ナルテクスにおける壁画の主題及び配置による空間構成の分析を行い、それらによって形成されている建築空間の意味を明らかにすることを目的として、コーラ修道院の内ナルテクスの内部合成写真を作成し、壁面装飾による空間構成を分析した。コーラ修道院の内ナルテクスにおいて、南ドームにおける「神としてのキリスト」及び北ドームにおける「人としてのキリスト」の可視化により、「キリストの両性」を表現する建築空間が壁画の配置によって形成されていたと考えられる。
9. 神戸・阪神地域における精神科病院の立地に関する研究	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), p. 193~194	森愛子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 精神科病院開設当時の治療の場の建築的特徴を明らかにすることを目的として、神戸・阪神地域で主に戦前に開設された6病院を対象とし、開設時期の地図や文献資料をもとに調査した。これらの精神科病院は、市街地からは隔てられた街の外れに位置していたが、あくまでもその街の内側にあったことを考察した。
10. コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の意味—ドームとの関係に着目して—	共	2013年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), pp. 749~750	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院における山の意味を明らかにすることを目的として、建築空間の断面構成とキリスト教絵画における山との関係の分析及び考察を行った。コーラ修道院の内ナルテクス及びパレクリシオンのドームにはアイコンが描かれ、その下のペンデンティブやルネットには神の世界と地上の世界の関わりを表現する図像、天使、聖母マリアの象徴である梯子及び契約の箱、そして山が描かれ、さらにその下には聖母マリアの執り成しをもってキリストによる救済を願う図像や献堂者達の墓室という断面構成になっている。コーラ修道院の建築空間においても、山は現実の世界と神の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていたと考えられる。
11. オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型—人物との関係に着目して—	共	2012年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 307~308	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画を分析対象とし、山の類型を抽出して、それら類型の意味を明らかにし、コーラ修道院のキリスト教絵画における山の類型と比較考察した。その結果「人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」という2種類の山の類型が抽出された。オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画において、コーラ修道院の場合と同様に、山は特別な意味を持つ、現実の世界と神の世界を繋ぐ場所だったと考えられる。
12. MOUNTAINS PAINTED IN CHRISTIAN PAINTINGS IN THE MONASTERY OF HOSIOS LOUKAS	共	2012年07月	iaSU2012 proceedings "Archi-Cultural Translations through the Silkroad", pp. 342~347	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型を抽出することを目的として、分析及び考察を行った。その結果「人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物が入り込む山」という3種類の山の類型が抽出された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
13. Mountains Painted in Christian Paintings in the Chora Church	共	2011年09月	iaSU2011	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型を抽出することを目的として、分析及び考察を行った。その結果「人物の横にある山」「人物を縁取る山」「人物が入り込む山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物が入り込む山」という5種類の山の類型が抽出された。
14. キリスト教絵画を通してみた西欧における自然描写の変遷	共	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), p. 915~916	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 西欧の自然描写の変遷を明らかにすることを目的として、キリスト教絵画における背景表現の分析を行った。分析を通して、13世紀末から15世紀前半を過渡期とする、黄金地を特徴とした背景表現から自然描写を特徴とした背景表現へ、という変化があることがわかった。
15. 箱庭療法と風景構成法と居住空間構成法の位置づけ—幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について その1—	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 1065~1066	柳沢和彦, 猪股圭佑, 原祥子, 岡崎甚幸
16. 学年別に見た山の構成の発達の特徴—幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について その2—	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 1067~1068	原祥子, 柳沢和彦, 猪股圭佑, 岡崎甚幸
17. 川別に見た山の構成の発達の特徴—幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について その3—	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 1069~1070	猪股圭佑, 柳沢和彦, 原祥子, 岡崎甚幸
18. 能動的移動実験と受動的移動実験の方法について—迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究(その1)—	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 683~684	猪股圭佑, 須貝成芳, 岡崎甚幸, 鈴木利友
19. 能動的移動と受動的移動における注視行動の比較—迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究(その2)—	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 685~686	須貝成芳, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 猪股圭佑
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績</b>				
1. 阪神鳴尾駅	共	2014年10月 現在 現場監理中(2012年04月~設計)	阪神電気鉄道株式会社、共同設計	外観及び内観デザインなどの設計提案を行っている。 所在地：西宮市里中町3丁目 用途：駅 構造：地上2階 鉄骨造 駅舎の空間が基本的に備えるべき特質である記号性を追求し、波型鋼板を用いて、単純、均質な空間を構成した。階段や改札口、エスカレーター、エレベーター、サインなどが他に邪魔されることなく、くっきりと浮かび上がって見える必要があるため、屋根を支える梁や小梁、照明や通信のための配管などが眼に入らないように、下地材や仕上げ材が一切不要な波型鋼板のディテールを検討した。壁と屋根面が一体となった曲面による空間の中に、上り、下りそれぞれのホーム階を包み込む。これにより、先端技術の象徴でもある、高速走行する電車に良く調和した、流動的でダイナミックな駅舎空間ができあがる。
2. 大阪府立職業技術専門校北部校	共	2013年竣工	東畑建築事務所	実施設計を担当。 所在地：大阪府枚方市津田サイエンスヒルズ地区 用途：職業訓練校 構造：地上4階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造 敷地面積：14041.65㎡ 延床面積：10400.05㎡ 「ものづくり」だけでなく「ひとづくり」を支援するため、「コミュニティストリート」「アメニティコート」等を提案した。訓練生同士や教官だけでなく、本地区に集う人たちの交流・対話の場を創出を目指した。
3. 税務大学校大阪研修所	共	2013年竣工	東畑建築事務所	基本設計及び実施設計を担当。 所在地：大阪府枚方市香里ヶ丘 用途：研修所(学校、寄宿舎、体育館) 構造：地上7階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造 敷地面積：26767.35㎡ 延床面積：13111.57㎡ 税務職員の研修所として、「管理研修棟」「学寮厚生棟」「体育館」を設計した。機能の違うそれぞれの

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
4. 国際法務総合センター	共	2012年設計	東畑建築事務所	施設を分棟配置して、屋根付き渡り廊下でつなぎ、雨天時などの利便性に配慮した。造成工事を少なくするため、敷地の高低差は概ね既存のままとし、「管理研修棟」をエントランス広場のレベル、「学寮厚生棟」と「体育館」を「管理研修棟」2階レベルとして、「研修の場」と「生活の場」の大きなゾーニングを行った。既存緑地帯を保全し、各棟を低層から高層へとセットバックする構成として、周辺への圧迫感を軽減した。
5. 横浜市庁舎耐震補強	共	2009年竣工	東畑建築事務所	矯正医療センター診療棟（地上3階 約3700㎡）及び講堂棟（地上2階 約850㎡）の基本設計及び実施設計を担当。 所在地：東京都昭島市 用途：医療刑務所、研修所、少年鑑別所、宿舎 構造：地上9階 地下1階 鉄筋コンクリート造 敷地面積：125791㎡ 延床面積：約120000㎡ 「環境共生・未来矯正施設」として計画された。既存生物や周辺植生との共生を図り、建物高さを抑え、オオタカの営巣期間を避けた建設工期としている。矯正医療センター（医療刑務所）では、医療と矯正の融合を目指し、植栽の配置や開口部の確保等において、収容環境の改善を提案した。
6. 東京建物仙台ビル	共	2009年竣工	東畑建築事務所	基本設計及び実施設計を担当。 所在地：横浜市中区港町 用途：庁舎 構造：地上8階 地下1階 鉄骨鉄筋コンクリート造 敷地面積：16472.97㎡ 延床面積：20756.45㎡ 村野藤吾氏設計の横浜市庁舎において、「地下1階柱脚免震工法」により、耐震補強を行った。市庁舎としての機能を継続しながら耐震補強を行う「居ながら工事」を可能とした。また、同時に法適合改修や設備改修等を行い、機能向上を図った。 平成22年度東畑建築事務所社長賞を受賞。
7. 警視庁東京湾岸警察署	共	2008年竣工	東畑建築事務所	基本設計及び実施設計、現場常駐監理を担当。 所在地：仙台市青葉区中央 用途：事務所 構造：地上20階 地下3階 鉄骨造（一部CFT造、鉄骨鉄筋コンクリート造） 敷地面積：2359.43㎡ 延床面積：28496.69㎡ 高速バス施設の併設及びバスベイの整備、仙台駅前ペDESTリアンデッキの延伸・接続等の都市貢献により、都市再生特別地区を実現した。その結果、基準容積率600%に対し、容積率1100%を獲得している。仙台の玄関口に相応しいファサード・駅周辺からの顕示性・周辺建物との差別化・圧迫感の軽減等を具現化する為、隅角部と頂部が曲面のガラス建築とした。 積算資料2010年5月号、近代建築2010年5月号、あたらしい照明vol.149平成21年照明普及賞号、日本建築学会東北支部東北建築作品集2010に掲載。 照明学会照明普及賞（優秀施設賞）を受賞。
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 東日本大震災を経験して—東京建物仙台ビル	共	2012年03月	財団法人経済調査会経済調査研究所 経調レビュー 2012 vol.10 pp.018-023	木村裕志、猪股圭佐 全文執筆 「東京建物仙台ビル」は、竣工後2年余で東日本大震災に見舞われたが、ほぼ無傷の状態で迅速な復旧を果たした。本稿では、設計段階における防災対策と、震災発生から復旧までの経過をまとめた。大規模建築の設計において、非常時に建物が倒壊せず人命を保護することは、最低限の条件であるが、今後はさらに、災害発生時に受ける被害を可能な限り少なくして、建物機能を維持し、地域の防災拠点として機能するという役割が、期待されるだろう。それは、街を創造していく立場でもある建築設計者が、担うべき都市貢献の一つでもあると思われる。
2. 東京建物仙台ビル	共	2010年09月	日本建築学会東北支部東北建築作品集2010 pp	清野真一、木村裕志、猪股圭佐 全文執筆

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
3. 杜の都のランドマーク 東京建物 仙台ビル	共	2010年05月	. 54-55 財団法人経済調査会 積算資料2010年5月号 前文 pp. 53-58	竣工写真や図面を引用しながら、建築計画の概要を記した。第21回東北建築作品発表会一般建築物部門にて発表。 木村裕志、猪股圭佑 全文執筆
4. 東京建物仙台ビル	共	2010年05月	照明学会 あたらしい照明vol. 149 平成21年照明普及賞号 p. 11	竣工写真や図面を引用しながら、設計から監理に至る約3年半に渡る過程を振り返り、設計の過程やデザインの特徴、現場での試行錯誤等を記した。 宮崎洋一、佐藤栄志、猪股圭佑、小島義包 建築計画他及び全文の取り纏めを担当
5. 東京建物仙台ビル	共	2010年05月	近代建築社 近代建築2010年5月号 pp. 95-100	竣工写真や図面を引用しながら、建築計画、構造計画、設備計画、施工計画の概要を記した。 木村裕志、猪股圭佑、西原慎一、小島義包、古川和彦、大崎勝雄、菅野勉 建築計画他及び全文の取り纏めを担当
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. ビザンティン聖堂のキリスト教絵画にみる自然観に関する研究	単	2013年	平成25年度 科学研究費補助金学内奨励金	コーラ修道院におけるキリスト教絵画を対象として、断面展開図や内部合成写真を作成し、絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。コーラ修道院のドームにおいて、山は神の世界と地上の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていた。絵画を描くことによって低い壁面を地上の世界、ドームを神の世界として構成し、ペンデンティブやルネットが二つの世界を区分している。これにより、キリスト教絵画による3次元のビザンティンの宗教的空間が構成されていることを考察した。 奨励金支給額 90万円

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2002年～現在	日本建築学会